

口五輪。選手たちの活躍に誰もが一喜一憂しました。  
担う鯖江の星たちも目標に向かって動き出しています。  
年後の東京オリンピックへ。期待と夢膨らむ、鯖江が誇る3人のアスリート。

テニス 林 恵里奈 選手（早稲田大4年 東陽中出身）

主将として迎えた、8月の全日本学生テニス選手権大会。「シングルス、ダブルスの2冠を取ることを目標にがんばつてきた」と見事、本県では初となる単複優勝を果たしました。「苦しい試合の連続だつたが、2冠を取れてうれしい」と笑顔で喜びを語りました。

来春の卒業後はプロに転向し「海外の試合に出てがんばりたい」と話し、2年後の国体に向けても「県体協所属として国体に参加し、福井県チームに貢献できるよう優勝を目指したい」と意気込みを語りました。

林選手を目標にしている鯖江の子どもたちに対て「地方だから関東、関西の人たちと比べるとハンディはあるかもしれないが、目標に向かってひたむきにがんばることが大切。結果は必ずついてくるのでがんばつて欲しい」とメッセージを送りました。



単複優勝の喜びを語る林選手



全日本学生選手権での  
林選手の気迫のこもつ  
たプレー

体操 川本 稜馬 選手（順天堂大4年 中央中出身）



つり輪で力強い演技を見せる川本選手（右）  
団体2連覇に笑顔の川本選手（前列左から2人目）

8月、地元・鯖江、それも高校時代の思い出が詰まつたサンドーム福井での全日本学生体操競技選手権大会。チームとしては2連覇を果たし喜びを表しましたが、「コンディション作りに失敗して本来の自分の演技を見せられなかつたのは残念」とほろ苦さを口にしました。

しかし、2年後の福井国体では、本県成年男子の主力として期待される存在。「まずはメンバーに入ることが大事。今回の経験を糧に国体では自分の演技をしたい。そして、これまでお世話になつた鯖江市や体操関係者の皆さんに恩返しがしたい」と誓いました。

4年後の東京五輪も見据え「全日本メンバーに入れるようがんばりたい。そのためにも、人の何倍も練習して、もっと強く美しい演技をしたい」と意気込みを語りました。

# 輝け！ 未来の主役たち

この夏、日本中を熱狂させたリオデジャネイ  
そんな大舞台での活躍を夢見て、次の時代を  
2年後の福井しあわせ元気国体、さらには4

8月の全国中学校体育大会走り高跳びで1m75cmの県新を記録し、県勢初の全中2連覇を達成しました。「少し緊張はあつた。腰の痛みがあつたが、気持ちを高ぶらせ集中して大会に臨むことができた。2連覇できてとてもうれしい」と振り返り、大会最優秀選手に贈られる文部科学大臣賞受賞には「自分でもびっくりしたけどそれしかった」と笑顔を見せました。

今後の目標を聞くと「1m75cmを1回で跳んで、目標とする1m80cmにより近づけるよう、中学生生活残りの大会もがんばっていきたい。福井国体には自分も出たい」と意気込みを語るまなざしに、力強さを感じました。

今月28日から神奈川県で開催される、第47回ジュニアオリンピック競技大会にも出場。目指すはもちろん「優勝」です。



全中連覇に笑顔がこぼれる  
蓑輪選手（上）  
県新を記録した蓑輪選手の  
跳躍（左）



陸上・走り高跳び  
**蓑輪** みのわ  
**夢未** ゆめみ  
選手（中央中3年）



## 「体操のまち鯖江」 ～2年後の“本番”に向けてプレ大会開催！～

2018年福井しあわせ元気国体のプレ大会を兼ねた「第70回全日本学生体操競技選手権大会」が8月18日から21日の4日間、サンドーム福井で開催されました。大会には71の大学から、地元鯖江高校出身者も含め選手、監督合わせて526人が参加。4日間で5,750人が来場し、選手たちは大きな声援を受けながら熱戦を繰り広げました。

また、リオデジャネイロ五輪に出場した白井健三選手（日体大）、寺本明日香選手（中京大）、村上茉愛選手（日体大）も鯖江入り。五輪での健闘をたたえて3人に花束贈呈のセレモニーが行われ、会場は温かい拍手に包まれました。

大会関係者のほか、市職員や市民ボランティアなど総勢284人で大会をサポート。総務部、競技式典部など部門ごとに細部にわたって班体制を敷くなど、2年後の本国体を見据えて大会の運営にあたりました。



【写真】①鯖江高校出身宮地秀享選手（筑波大）のあん馬の演技 ②JR 鯖江駅では市職員が選手らをお出迎え ③ドリンクコーナーを運営する市民ボランティア ④花束を手に笑顔を見せるリオ五輪出場選手（左から）白井選手、寺本選手、村上選手